

□議員名：吉永美子

1 市長の退職金に関する答弁について

論点	首長の退職金について問題提起した際、市長より、育英資金として使いたい旨の答弁があったが、今もその思いは変わらないか。
回答	基本的には変わっていない。北九州市の方が個人でされている奨学金制度をさらに育英方式に発展させる方向で、自分も参加し、かつ何とか尽力できる方法はないかと、現在模索している。山陽小野田市内の企業や市民にも、その輪を広げていく必要がある。

2 定住促進について

(1) 婚活支援事業の状況について

論点	民間力の活用を提言してきたが、3年のブランクの後、ようやく始まった民間による婚活支援事業をどう評価するか。
回答	非常に専門性がある、啓発力もあると思っている。民間事業者ならではの専門性をいかに発揮されていると考えており、成果については非常に上がっているのではないかと感じている。

(2) 結婚支援の考えについて

論点	政府においては、結婚新生活支援事業を展開しているが、本市はどのような結婚支援事業を展開していく予定かを聞く。
回答	国の事業は、親と同居する場合などとの公平性や一時的な経済支援で低所得者支援や結婚の促進につながるのかなど、研究すべき課題が多いと考えている。現在、さまざまな低所得者支援を実施しているが、全体のバランスを考える中で方策を検討する必要がある。

(3) 空き家バンクの検討状況について

論点	平成20年9月議会で空き家バンク制度の導入を提案して以来、繰り返し取り上げてきたが、導入の検討状況を聞く。
回答	空き家の利活用は極めて有効な方策の一つである。空き家等対策計画の策定が必要であると考えており、準備を進めている。空き家等対策計画を策定する中で、全国移住ナビを活用した空き家バンクシステムの充実を図っていきたい。

論点	平成26年12月議会で13市の中で空き家バンクを行っていないのは下松市、光市と本市であることを紹介したが、昨年度から光市が開始した。このことをどう評価しているか。
回答	議員指摘のとおり、空き家の利活用についても我が町のPRをしていかなければならないと考えている。ひとりぼっちになるのは考えていない。今後、協議会を設置し、専門家による知見や庁内の空き家対策委員会も活用し、空き家バンクの創設に努めたい。

論点	大きく問題提起した「住まいイキイキ情報提供事業」について、そこで得た空き家情報を活用しないのか。
回答	2年間で2,500万円かけた事業として、雇用と空き家の調査という形で進めていたということで、データを持っている。担当部局とデータの照合をすることについては、やぶさかではない。

3 市民の健康づくりについて

論点	全国の自治体で導入が始まっている「健康マイレージ」を導入する考えはないか。
回答	地方創生の観点から言えば、かなり効果的な事業ではないかと考えているので、関係課と協議をしていきたい。議員の言うポイントの寄付についても研究していきたい。

論点	「健康みやざきマイレージ」のように、子どもを巻き込んでいくことが大事であると思うが、この宮崎市の取組をどう評価するか。
回答	県の「やまぐち健康マイレージ」は18歳以上となっているが、「健康みやざきマイレージ」は小学生以上ということで、非常に有効だと考えている。健康マイレージを取り入れる際には、宮崎市の例を先進地例として進めていきたい。

4 A E D（自動体外式除細動器）の普及促進について

（1）コンビニへの設置についての検討状況

論点	平成26年6月議会で提案したコンビニへの設置について、検討状況を聞く。
回答	市内には24店舗のコンビニエンスストアがあり、これら全てにA E Dを設置するとなると、設置費用や維持管理の面から難しいところがあり、現在行っていない。

論点	小中学校に設置されているA E Dを屋外に置くことについて、教育委員会に考えを聞く。
回答	学校の安全面ということもあるが、今は地域に開放、そして連携ということが一番重要な面として考えているので、地域の方やいろいろな方がいつでも使えるという方向で整備できるならば、もちろん協力させていただく。

（2）自治会へ普及のための補助金導入について

論点	埴生地区で防災訓練が行われた際に、参加住民から要望があったことから取り上げているが、希望する自治会へ補助ができないか。
回答	自治会に設置することも大きな手段の一つと考えている。自主防災組織補助金という免除があるが、A E Dの購入費は35万円ぐらいかかるので、非常に持ち出しが増えてしまう。これについては、研究していきたい。